



# コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュ・スレタ - No.105

2004年 7月

## 「軍人キリスト者」国際大会雑感（その五）

### 9 AMCF 国際聖書研究会

前稿の米国海軍大学院に行ったとき、助教授の海軍少佐 Cal.Dunlap の家に家内と共に同居したのだが、その期間は結構忙がしかった。Cal は AMCF の幹部をやっていたので、その仕事も忙しく、それらに付き合う場合が多く、日曜日には勿論、学校のチャペルには朝から聖研があるし、週日でも色々な所で、色々な集会有る。我々の家でも時々聖研に熱心な人達が集まって来る。近くに陸軍の基地があって、時々陸海で合同の早天祈祷会をやった事があったが、同じ軍人でも、姿勢にしても態度にしても、何んともなく違うのは面白いと思った。

大学の学生官舎に、Jacobson 中尉が若い奥さんと共に住んでいて、そこで毎週聖書研究会をやっており、Cal.がそれを応援していたが、私が来たのでそれを私に代わってくれないかと言う、頼まれれば何とかなるだろうと思って、参加する事にした。然し一度 Cal.に連れて行ってもらったのだが、同じような官舎が並んでいるので、なかなか分からない。暗い夜道をそこまでたどるのは、中々大変なので昼間のあいだに、覚えようと、大分努力をする事になった。

International Bible Meeting という名が付いているのだから、見かけは立派なのだが、集まるのはメキシコ・ガテマラ・インドネシア・韓国・等からの外国留学生なので、皆頭の働く人達なのだが、言葉が正確な英語でないので聞き取りづらい。そうは言っても私の英語が一番下手かもしれないので、そんな事は言っておられない、何とかなるだろうと思うことにした。

少し早くいってみたら、Jacobson 中尉が玄関口でコ

ルネリオ会名誉会長工学博士 今井健次  
ーヒー豆の準備をしており、奥さんは家の中で何やら忙しそうなので、家の中に入っていたら、だんだん人が集まって来た。

今日の聖書の箇所はきまっているので、そこは皆読んで来ているので、集会はするすると進んで、順番に感想を言うことになった。大体の内容はわかるし、人々の話によって夫々のお国振りがわかる様で、話はなんとなく面白い。次は自分の番というので、私は思い切って、日ごろ思っていた事をべらべらと日本式英語でまくし立てた。どこまで意思が通じたか分からないが、誰も質問する訳でなし、講壇で説教するような気持ちで気分がよい。そのうちコーヒーブ레이크になって、始めての人に対しても、なんとなく同志という感じがして、和気藹々と言う感じになった。他の人達も同じような感じなのか、難しく言うと主にあって一つと言うのかもしれない。

### 10 シンガポール

シンガポールはクリスチャンが多く、発展途上としても優秀なので、AMCF にも熱心であり、アジア国際大会も 1981 年と 1990 年と二度参加した。1981 年 8 月の大会には、日本コルネリオ会からも 10 人（男 7 人女 3 人）が参加した。

シンガポール空港に到着するや、AMCF の会員が多数出迎え、各国からの代表を夫々の宿舎に案内して行った。私と家内はかなり大きな教会の宿泊室に案内されたが、ここは AMCF の会員が牧師をやっており、活発な教会で、到着した土曜、日曜には、大勢の信者が集まり数人ずつ固まって聖書研究をやっている。各グ

ループには若いリーダーがいて夫々指導しているので、これでは宣教はどんどん進むと思った。

大会は8月10日の月曜日から行なわれるというので、その間他の会員に、ゆっくり案内してもらおう事ができた。大会には10時半頃、会場の Changie Camp という施設に到着。ここは軍関係なので、宿泊は男女別々の建物に二段ベットが配置され、幾班かにばらばらに分かれた。荷物を置き、Dining room で、久しぶりに会う人たちや、多くの初めての人達とも挨拶して、大会が始まった。この日は丁度シンガポールの National Day で、国をあげての記念の日だったので、国立大広

場で部門別の大パレードがあり、国防大臣も来場されるというので、我々もネクタイをつけて参観することになった。色々の団体が堂々で行進する中に、一団のスチュアデスが揃いの機内の服装で行進に参加したのは圧巻であった。ここにも発展途上国の活力を見せつけられた様な気がした。その後の国際大会は質素の内でも工夫を凝らし、聖霊の御臨在を感じつつ成功裏に幕を閉じた。解散後もホームステイで厚い歓待をうけ帰国することになった。(おわり) -

## 聖書に学ぶリーダーシップ(その2)

コルネリオ会員伊藤忠臣

本稿を起す頃、丁度イラク復興支援の本隊施設部隊がサモア到着をTVが報じ、国会での派遣に係わる事後承認も完了した。自衛隊の平和維持活動の新たな一ページ「イラクの戦後復興支援」が開かれつつあるとの実感を覚える。本稿はイエスが活動初期に説いた‘山上の説教’から「敗者への寛容」について学びたい。ガラリア地方は中近東とエジプトとの回廊地帯で支配者ローマ人を頂点としギリシャ人、イスラエル人(ユダヤ部族)等、統治者と被統治者、自由人と奴隷、選民と異邦人、富者と貧者、そして病んだ人々(伝染病、熱病、悪魔に取り付かれた人、不治の病人、)かん婦、孤児等の人種、階層、その他雑多雑種が混在し混沌とした地域であり、だからこそ言い伝えの政治的メシアを待望していた時代でもある。イエスは此処において暖かい奥行きのある眼差しを恵まれない民衆に注いでいる。[心の貧しい者は幸いである](マタイ 5:1)とは「神と富とに仕えることは出来ない」(マタイ 6:24)と重層すると、富を欲することも、欲することさえもかなわぬ無力でただ仰ぎ見る神しかない弱い人々そして幼い子に。

「悲しむ人は幸いである」(マタイ 5:4)身内や最愛の人に嘆くべきことがあっても神を求める以外になす術がないまたはそれを乗り越えて神を求める人に。「平和を実現する人々は幸いである」憎悪や闘争や軋轢や相克のかわりに愛や和解や理解をもたらし、平凡な日常生活を取り戻すこと(戦後復興)に労する人々に。

イラクも東チモールもルワンダでもこういった打ち拉がれた人々が沢山存在しその人達を支援する自衛隊のリーダーにはこのイエスの深い温かい眼差しが求められる。「木を見て森を観ず」とは目の前の板の艶・木目・節等を見て値を決めることを戒め、目利き人が板の元の木が育った森で、南向きの日当たりか北向きの吹きさらしだったかで硬さや伸縮も合わせて判断し柱や板の用途によって値踏みすることを学べと教える。まさに人を観察するのも同じで目の前は全体(生きてきた歳に分家族・環境・接した人々)の一部が存在しているのだと思って接遇すると、悪い所も背景を見るとわかってくる。そしたら理解してやれるという度量ができ信頼を受け心からの服従をえるのです。

東チモールから帰った幹部が言う「独立運動の闘士から日本自衛隊大好きとハグされました。理由は1、我々を人間扱いしてくれる2、交通ルールを守ってくれる3我々の言語を学ぼう使おうとしてくれる。4、局地信仰の象徴である大石や大樹を尊重して道路の設計を手直ししてくれることもある」と漏らした言葉に心が通じ合っているなあとの感を深くします。まさにMt5;9の再現ではありませんか。

「あなた方は地の塩である・・・あなた方は世の光である・・・」(マタイ 5:13-14)

塩はほかの食物と混ぜてはじめて美味しい味となり、そのまま舐めたら喉が渇くだけです。リーダーも‘地の塩’になるために孤高にならず塩の様に他と交わり

広く他者の間に入りそれぞれの味を引き出し他の共同体に生きる心が必要です。そして他者の欠点も弱点も柔和に赦し、他者に善を願いつつ他者の悲哀をわが悲哀とし苦や暑さや渴や飢えをわが身に感じ助力を尽くす心構えもいります。(先憂後楽)これが‘世の光’に成長する原点です。

「口に入るものは人を汚さず、口から出て来るものが人を汚すのである。」(マタイ 15:11)

自衛隊のリーダーは命令口調をしっかりと教え込まれる。必要な要素はすべて含みながら一点の疑義もない内容にと・・曰く「・・する。せよ。せい。」との言い様が習い性となり会話は一般にキツイ感じと大声なので人は叱られている印象を受けてしまう。肝心なのは心から出る言葉の選択とやわらかさと味である。「だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。」(ヤコブ 1:19)は瞬時に相手と自分

のことがらの真意を判断し「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」(マタイ 7:12)の精神で率直にゆっくり諭す如くに言うことです。

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。」(マタイ 7:12)イエスが何回かに分けて山の上で述べた御言葉(マタイ 5章 7章)を生涯守って実行するならばリーダーとして大成するでありましょう。

(後記)「御言葉は人生訓ではない」とお叱りを受ける積りで書きました。1コリント 13章愛の賛歌などもよいのですがマタイ 7:12がそれを包含しているのではないか、また現代社会の風潮で育った人々には黄金律の方が短くて要を得ていると考えたからです。「箴言」は人生訓の宝庫です。

## 戦争について考える(その1)

### 目次

- 1 はじめに
- 2 定義的事項
- (1)戦争とは何か、(2)戦争についての考え方
- 3 戦争観
- (1)戦はやってはならない、(2)世に正義の戦はない
- 4 戦争論
- (1)政府、(2)戦争はある、(3)暴力、(4)軍隊、(5)軍人、(6)戦略戦術、(7)情報、(8)戦争を防ぐ手段として「専守防衛」は有効か?
- 5 おわりに

### はじめに

2003年3月18日アメリカのブッシュ大統領がイラクのフセイン大統領に最後通告を発した。3月21日に大規模空爆で米英連合軍は戦争を開始した。それ以来TV新聞は毎日のように多くの時間や紙面を割いて戦争について報道し、あるいはコメントを述べている。TVの画面は対角線の長させいぜいわずか数十センチである。その矩形の中に切り取られてくる映像はそれぞれのカメラマンが撮ってくるものである。カメラマンあるいはそのTV放送会社が見せたい知ら

コルネリオ会 会員 足立順二郎

せたいという映像である。必ずしも私がどうしても知りたい見たいという映像ではない。新聞紙面にしてもまたしかり。

おまけに、実際にドンパチをやって戦場を取り仕切っているのはアメリカでありイギリスでありイラクである。報道管制が敷かれていると考えた方がいい。宣伝合戦が行われていると考えた方がいい。

4月14日サダム・フセインの出身地ティクリートは陥落し、米英軍は実質的にイラク全土の制圧を終えた。これらの戦争報道の画面なり紙面なりを見ているだけでは、またたくさんのコメンテーター(戦争については多分多くは素人)の出演するTVショーを見ているだけでは、あてにできない他人の考えに頼っているに過ぎない。戦争についての自分自身の考え方をよく整理しておかないと、いたずらに感情論や感傷論に走って付和雷同するだけである。誤判断を招くもとである。私は若年の海軍主計科士官として大東亜戦争に従軍した。弾の下もくぐった。自ら機関銃の引き金も引いた。その間に孫子を読み略解も書いた。

戦後は海上自衛隊に勤務した。補給分野においては全

海上自衛隊を観かつ考える立場についてことはあったが、その範囲を超えることはなかった。指揮官としては地方補給所長の地位を超えることはなかった。しかし、その間任務に照らしつつ孫子を読み、退役後に二度目の孫子略解を記した。

世の中は変わる。2001年9月11日のアメリカにおける同時多発テロは戦争というものの態様を変えた。戦争というものの考え方についても大きな変化を与えたと思う。

世の中は変わる。しかし、変化のスピードは物事によって異なる。大変変わってしまうものと大して変わらないものがある。

それらのことを考え合わせながら、体験と読書に照らしながら以下に私の考え方を整理して記録しておくこととした。

患者は経験に学び智者は歴史に学ぶという。この小論は患者の意見である。

2 定義的事項 以降は次回ニュースレターに掲載いたします。

## 2004年度 総会報告

6月15日(土)、市ヶ谷で2004年度コルネリオ会総会が実施されました。午前の金先生のメッセージでは、『神の栄光を現すため、肉と霊の戦いに勝利して、各場所において主の証人となりましょう』というIIコリント4:7-18の箇所から力強い言葉いただきました。

総会では、2005年のINTERACTION(軍人クリスチャンリーダー研修会)日本開催を、東京蓮根バプテスト教会で7月30日(土) - 8月4日(木)に決まりました。

また、役員人事、会計決算及び予算は以下のようになっています。異議のある方は会宛て1ヶ月以内に申し立ててください。

### 役員人事

名誉会長	今井 健次
会長	石川 信隆
副会長・総務	中野 久永
企画	今市 宗雄
広報	圓林 栄喜
会計	長濱 貴志

監査・賛美	加瀬 典文
渉外	矢田部 稔
顧問	滝口 厳太郎
顧問	鈴木 建一
教職顧問	金 学根
教職顧問	月井 博

### 2002年度決算

(2003.4.1 ~ 2004.3.31) 決算

1 収入	前年度繰り越し	¥1912,322
	献金	¥818,174
	集会等参加費	¥80,500
	利息(郵便局定期貯金)	¥107,772
	合計	¥2,918,768
2 支出	講師への謝礼・支援費	¥280,000
	ニュースレター作成・発送費	¥78,095
	新聞雑誌広告費	¥26,250
	事務通信費	¥38,630
	慶弔費	¥0
	接待交際費	¥60,375
	旅費・交通費	¥210,000
	集会費	
	定例会会議費(6月総会含む)	¥73,800
	防衛大聖書研究会	¥123,395
	雑費(振り込み手数料)	¥6,120
	献金(国内教会・海外へ)	¥21,500
	次年度への繰越金(大会準備基金含)	¥1,500,000
	合計	¥2,918,768

### 祈りの課題

- 1 防大聖研のためにお祈りください。
- 2 AMCF世界大会(ソウル)への参加者が起こされると共に、祝福された大会となるようお祈りください。
- 3 イラクに派遣されている自衛隊員の安全のためにお祈りください。
- 4 コルネリオ会会員の信仰が守られ、それぞれの職場で主の御名が崇められる働きができるようお祈りください。
- 5 2005年のINTERACTION(軍人クリスチャンリーダー研修会)日本開催と必要資金が得られるようお祈りください。

### 献金感謝(2004.2.10~2004.5.15現在)

今回も多くの愛する兄弟姉妹から尊い献金をいただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。(敬称略)

山口 裕、谷田部 稔、松村 和紀、広田 具之  
山下 和雄、倉松 功、今井 健次、飯塚 正実  
滝口 厳太郎・きぬ子、伊藤 忠臣、繁田 篤良・春代

皆様のご意見、ご感想をお待ちいたしております。匿名でも結構です。自由なご意見をお寄せ下さい。

(編集子)

コルネリオ会(JMCF)

(防衛関係キリスト者の会)

コルネリオ会広報室

〒085-0814 北海道釧路市緑ヶ岡2-1-123

圓林栄喜

電子メール:enrin@m9.dion.ne.jp

郵便振込口座 00130-3-87577 コルネリオ会

コルネリオ会ホームページ:

<http://www.geocities.jp/samuell1/index.html>